

健康増進につながる 働き方改革



長時間労働の是正が働き方改革の重要な論点の一つになっている。わが国ではこれまで、勤勉に働くことによって経済成長を達成し、これを維持しようと努めてきた。しかし、それを支えてきた長時間労働が、いつのまにか働く人の肉体と精神の両方の健康を蝕み、フラストレーションの溜まった職場に様々な問題を出させ、生活とのバランスにも影響を与えている。こうした歪みを是正し働き方改革を進めるには、どのような取り組みが求められるのか。日本とフランスの働き方や昼食等の過ごし方を議論したワークショップの内容や企業事例などから、健康の保持・増進につながる働き方を考える。

JILPT・EHESS／FFJ共催ワークショップ

働き方改革・生産性向上・well-being at work

——日仏比較・労使の視点から

JILPTとEHESS/FFJ(フランス国立社会科学高等研究院／日仏財団)は3月15日、「働き方改革・生産性向上・well-being at work」と題する共催ワークショップを開催した。well-being(ウェルビーイング)は、いろいろな概念を包有するため和訳しにくい言葉だが、最近では「幸福度」や「満足度」など、働き方の尺度の一つとして使われることが多い。ワークショップでは、日本で行われている働き方改革をベースに、働き方と生産性向上の関係、働き方とwell-beingの関係について日仏双方の専門家が話し合った。

